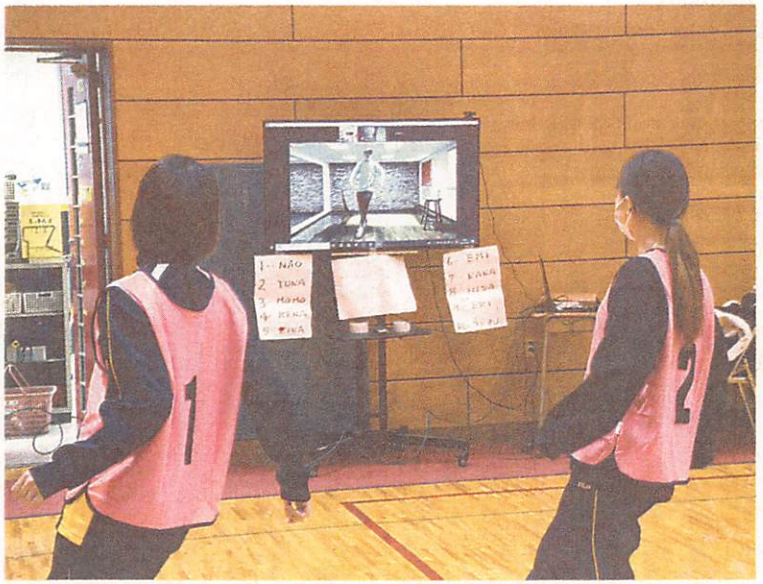
ネットでダンス習う

土浦一高定時制の女子生徒

シンガポールのダンサー　動きや表現指導

土浦市の県立土浦一高定時制の3年女子生徒11人が、体育の授業の一環でシンガポールのダンサーからオンラインでダンスの指導を受けている。生徒たちはダンサーと英語で会話をしながら、本格的なプロの動きを参考に真剣に授業に取り組んでいる。来年2月の授業終了時にはまとめのダンスを披露する予定。



画面内のシンガポールの講師に合わせて踊る生徒たち＝県立土浦一高

授業は国際交流に力を入れている体育の谷口実教諭が、シンガポールの教員を通じて、同国のダンサーで振付師のアルビン・タンさんに授業を依頼したところ快諾を得て実現した。

新型コロナウイルスの感染拡大でオンラインでの交流が進んだことを機に、授業はインターネットのウェブ会議システムを使い、日本とシンガポールを結んで行われている。

11月20日～来年2月5日の毎週金曜、計7回にわたり、午後7時すぎから同校体育館で実施。大型モニターを使って現地と映像をつなぎ、アルビンさんの指導に基づき、生徒はダンスのための関節を使う動きやリズムの取り方、ヒップホップの基本を習得する。最後には世界的なヒット曲に合わせて表現活動をする。

12月4、11日の授業では、生徒たちはダンスの基本の動きを学んだ。画面内のアルビンさんに合わせて体を動かし、約40分間汗を流した。アルビンさんは一人一人に呼び掛けながら分かりやすく教えた。

久松綾香さん(18)は「ダンスを通して海外の人と話したり交流したりできるのはいい機会」と話した。谷口教諭は「コロナの影響で文化祭もできず、生徒もストレスがたまっている。ダンスの楽しさを十分味わってほしい」と見守っている。

（綿引正雄）